

ハンガリー人日本語学習者が用いている 「辞書」とは

－「辞書」使用に関する支援は可能か－

相川弓映（早稲田大学大学院日本語教育研究科博士課程）
yumie999@hotmail.com

【要約】

本稿は日本語学習者（以下、学習者）がコンピューター（以下、PC）で文章を書く際、どのような「辞書」を、どのように用いているか事例を示す。「辞書」とは、紙媒体の辞書だけではなく、学習者が知らなかったり、ふと忘れてしまったりした語や表現を探すために用いるリソース全般を指す。つまり、インターネット上の辞書サイトや検索サイトなども「辞書」と呼ぶ。「辞書」使用の事例を示した上で、「辞書」使用に関する支援が可能かどうか検討する。

1. 背景と目的

人々の生活にPCが根付いた現代社会では、手書きで何かを書くことは少なくなり、PCを用いて文章を作成することが多い。それは、学習者にとっても同様であり、メールやレポートをPCを用いて作成している。また、日本語母語話者が日本語で文章を作成する際、例えば格式ばった文章の冒頭に書く表現を検索するように、学習者も様々な「辞書」を参考に、様々なストラテジーを用いながら文章を作成している。

しかしながら、学習者がどのようにPCを用いて文章を作成しているか、これまで明らかにされてこなかった。また、PCで文章を作成する際、どのような「辞書」を、どのようなストラテジーで用いるかは学習者自身が身につけてきた。つまり、学習者に対して具体的な支援は行われてこなかった。

そこで、本稿では学習者がPCを用いながら、どのように文章を作成しているのか、その調査結果の1つを示す。調査では以下の2つをリサーチクエスチョンとした。

1. 学習者はどのような「辞書」を使っているか。
2. 学習者はどのように「辞書」を使っているか。

調査結果を分析し、リサーチクエスチョンに答えをだす。そして、「辞書」使用に関する支援が可能かどうか、検討する。

2. 調査方法

調査は以下の方法で行った。調査協力者には、SNS上に投稿すると仮定した文章作成を依頼した。文章作成中は、どのような「辞書」を使っても良いとした。調査協力者が文章を作成している様子は、ビデオで撮影した。そして文章作成後、調査協力者が「辞書」を用いた箇所について、フォローアップインタビューを行った。調査協力者には事前に、調査中はインターネット接続されたPCがあるこ

とを伝えた。また、普段から使っている「辞書」があれば持参するよう依頼した。

調査協力者は、ハンガリー語を母語とする日本学科専攻の大学生である。日本語能力試験N1に合格しており、1年間日本に留学した経験がある。また、1週間に2～3回程度、日本語でSNSに投稿しており、SNS使用に慣れた学習者である。

上述の通り、普段から使っている「辞書」があれば持参するように伝えていたが、調査協力者は調査の際「辞書」は持参していなかった。しかしながら、調査前に行ったインタビューでは、日本で購入した電子辞書、ハンガリーで購入した紙の辞書（ドイツ語—ハンガリー語）を自宅に所有していると答えている。また、これらの「辞書」はあまり使っていないとも答えている。

3. 調査結果

本調査で作成された文章は、450字程度のもので、論文コンクールで優勝した話が書かれている。文章作成の際、「辞書」を用いたのは4か所だった。このうち、興味深い事例2つを調査結果として示す。

3-1. 事例1「オリエンタリズム」

調査協力者が作成した文章は、「僕がこのテーマについてオリエンタリズムという部門で発表しました。」である。この「オリエンタリズム」を検索した過程を以下に示す。

まず、辞書サイト Denshi Jisho¹を開き、何もせずに保留した。その後、検索サイト Google²に移動し、「Orientalisztika（ハンガリー語でオリエンタリズムにあたる語）」という検索ワードで検索を行った。検索結果の中からハンガリー語で書かれたウィキペディアのページ³を選んだ。

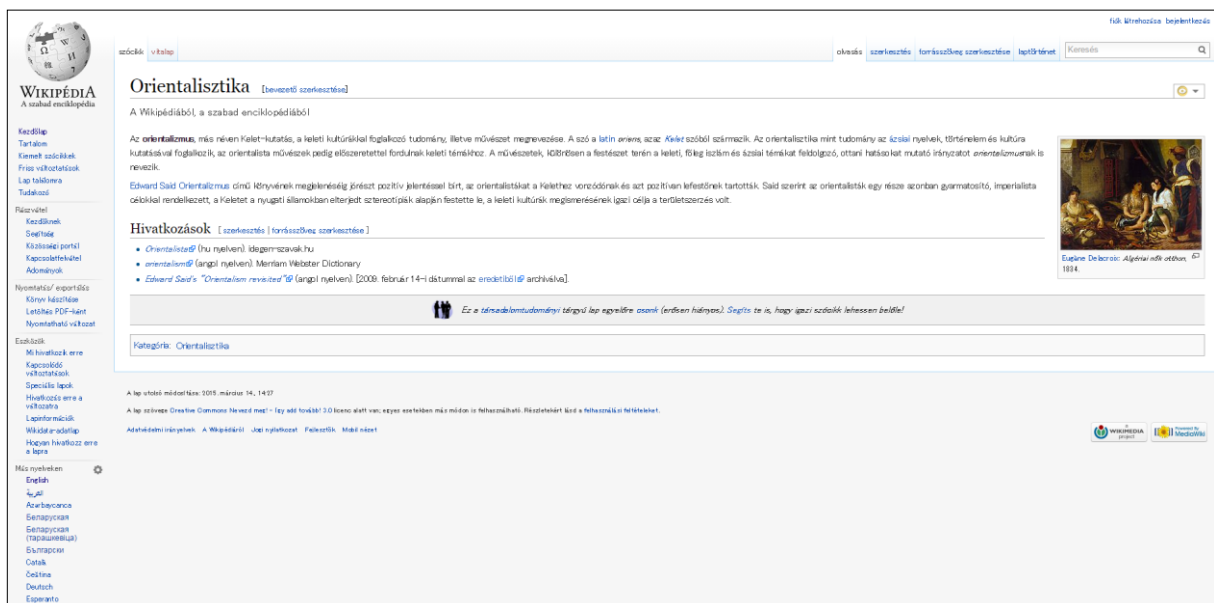


図1. ハンガリー語で書かれたウィキペディアのページ

ウィキペディアには、同じテーマで書かれた他言語ページがリンクされており、調査協力者は図1

¹ Denshi Jisho <<http://classic.jisho.org>> (2016年3月14日閲覧)

² Google <<https://www.google.hu>> (2016年3月14日閲覧)

³ WIKIPÉDIA「Orientalisztika」 <<https://hu.wikipedia.org/wiki/Orientalisztika>> (2016年3月14日閲覧)

のページからすぐに日本語へのリンクを選択した。そして、日本語で書かれたウィキペディア「オリエンタリズム」のページ⁴と、ハンガリー語で書かれたページを3～4回見比べた。



図2. 日本語で書かれたウィキペディアのページ

フォローアップインタビューで、この検索過程について質問をした。

フォローアップインタビュー1. ウィキペディアの使い方について

Q: ウィキペディアってよく使ってる?

A: うん。例えば「オリエンタリズム」。ハンガリー語バージョンを見て、他のことばのバージョンを見る。内容が同じかどうか確認してから判断する。

Q: 内容確認って、読んで…

A: ちょっとだけ読んで、ここで「美術世界」と書いてあるから、ハンガリー語のバージョンと同じじゃないかなと思って…

筆者がウィキペディアについて質問を始めたところ、調査協力者は「オリエンタリズム」での使用方を例に挙げ、「内容が同じかどうか確認してから判断する」と答えている。そこで、筆者がどのような確認をしているのか聞こうとしたところ、「ちょっとだけ読んで」と答えている。つまり、日本語のページとハンガリー語のページを見比べている際、「ちょっとだけ読んで」いることがわかる。続けて「ここで『美術世界』と書いてあるから、ハンガリー語のバージョンと同じじゃないかなと思って」と話している。ウィキペディアの日本語ページには「オリエンタリズム (英: Orientalism、仏: Orientalisme) とは、元来、特に美術の世界において、西ヨーロッパにはない異文明の物事・風俗 (それらは「東洋」としてひとまとめにされた) に対して抱かれた憧れや好奇心などの事を意味する。」と書かれている。この点がハンガリー語のページとは異なるので、内容が「同じじゃないかな」と思っ

⁴ ウィキペディア「オリエンタリズム」 <<https://ja.wikipedia.org/wiki/オリエンタリズム>> (2016年3月14日閲覧)

たと話している。このことから、調査協力者が日本語のページとハンガリー語のページを見比べながら、ポイントとなる箇所を選び、内容確認を行っていることがわかる。

ウィキペディアの日本語のページとハンガリー語のページが「同じじゃないかな」と思った調査協力者は、検索サイト Google を用い「オリエンタリズムとは」という検索ワードで、検索を始めた。検索の際、「～とは」を使うストラテジーは、大学で習ったとフォローアップインタビューで述べている。その後、再度、ウィキペディアの日本語ページを眺めた後、多言語リンクから英語を選択した⁵。フォローアップインタビューでは、「英語のバージョンも見て、思った意味があった」と話している。また、「そして、日本語のバージョンも確認して、『歴史学』と書いてあるから、たぶんいいかなと思いました。」とも話している。

Orientalism is a term used by scholars in art history, literary, geography, and [cultural studies](#) for the depiction of [Eastern](#), that is “Oriental” cultures, including Middle Eastern, South Asian, African and East Asian cultures, done by writers, designers, and artists from the West. In particular, Orientalist painting depicting “the [Middle East](#)”^[1] was a genre of 19th-century [Academic art](#). The literature of Western countries took a similar interest in Oriental themes.

図 3. 英語で書かれたウィキペディアのページ「歴史学」該当箇所

「オリエント」(「東洋」、「東洋的」、「東洋性」とは西ヨーロッパによって作られたイメージであり、[文学](#)、[歴史学](#)、[人類学](#)など、広範な文化活動の中に見られる。サイドによれば、それはしばしば優越感や傲慢さや偏見と結びつくばかりではなく、欧米の[帝国主義](#)の基盤ともなったとされる。このためエルネスト・ルナン、バーナード・ルイス、V・S・ナイポールなども、偏見を広める人物としてサイドに批判された。この批判にはルイスからの反論もあり、サイドの問題提起以降、オリエンタリズムを題材とした研究や論争が続いている。

図 4. 日本語で書かれたウィキペディアのページ「歴史学」該当箇所

上述の通り、調査協力者が完成させた文章は、論文コンクールで優勝した話書かれている。この調査協力者の論文テーマは歴史に関するものであったため、「たぶんいいかな」と判断したと考えられる。

しかし、調査協力者はここまで調べたにも関わらず、作成中の文章に「オリエンタリズム」と書き、すぐに消した。その後、検索サイト Google で「東アジア論」という検索ワードで検索を始めた。検索結果を眺めた後、「東アジア論とは」という検索ワードで再度検索を行った。検索結果を眺めた後、作成中の文章に「オリエンタリズム」と書いた。この検索過程について、フォローアップインタビューで、以下のように話している。

フォローアップインタビュー 2. 「東アジア論」の検索について

Q : 途中で「東アジア論」って書こうとしてなかった？

A : そういう言葉もあるかなと思って、調べてみたけど、思ったことがなくて、やっぱりこれ (オリエンタリズム) を使おうと思った。

以下の図 5、図 6 の通り「東アジア論」「東アジア論とは」で検索した場合、検索結果として本のタイトルが多いのがわかる。また、「アジア主義」「東アジア世界」といった語が検索される。「オリエンタリズム」とは異なり、ウィキペディアのように語を説明するページはない。そのため、調査協力者は「東アジア論」ではなく、「オリエンタリズム」を文章に採用することを決めたと考えられる。

⁵ WIKIPEDIA 「Orientalism」 <<https://en.wikipedia.org/wiki/Orientalism>> (2016 年 3 月 14 日閲覧)



図5. 「東アジア論」 検索結果の一部



図6. 「東アジア論とは」 検索結果の一部

3-2. 事例2「地位」

調査協力者が作成した文章は、「ある韓国語専攻の学生は、挑戦（原文ママ）時代の女性の地位について発表して、もう一人は第二次世界大戦後の日本の経済について紹介して、あとは例えば中国の宋朝について話しました。」である。この「地位」を検索した過程を以下に示す。

まず、ハンガリー語と日本語の辞書サイト Adys⁶で「helyzet（ハンガリー語で地位にあたる語）」を検索し始めた。

The screenshot shows search results for the Hungarian word 'helyzet' on the Adys website. The results are listed in a vertical column with various categories and example sentences in Hungarian and Japanese. The categories include: 事態 (situation), 局面 (situation), 立場 (position), 事情 (circumstances), 姿勢 (posture), 情勢・状況 (situation/circumstances), 動静 (status), 様子 (appearance), シナリオ (scenario), 位置 (position), 場面 (scene), jelenlegi helyzet fenntartása (maintenance of current situation), szorult helyzet (difficult situation), kialakult helyzet (developed situation), üzleti helyzet (business situation), hátrányos helyzet (disadvantageous situation), egymáshoz képesti helyzet (relative position), and kitapasztalja a helyzetet (test the situation).

図7. Adysでの「helyzet」検索結果の一部

この検索過程について、フォローアップインタビューで以下のように話している。

フォローアップインタビュー3. 「helyzet」の検索について

A: 女性のポジションとかそんなことを書きたかったけど、思い出せなかった。
ハンガリー語で調べて、地位がなかった。例文も見て、書きたいことに合わないと思って

「思い出せなかった」と話していることから、元々「地位」という語は知っていたが、この時点では忘れていたと考えられる。また、検索結果の「例文も見て、書きたいことに合うかどうか確認していることもわかる。

「helyzet」の検索結果を眺めた後、英語とハンガリー語の辞書サイト ORIGO SZTAKI SZÓTÁR⁷で、再度「helyzet」の検索を行った。検索結果から、「helyzet」の英語を「status」と決め、英語とハンガリー語の辞書サイト Denshi Jishoで「status」の検索を行った。Denshi Jishoは英語とハンガリー語の辞書サイトであるが、「helyzet」の英語が思い出せなかったため、まずは「helyzet」の英語を検索したとフォローアップインタビューで話している。

Denshi Jishoで「status」を検索すると、26の結果が表示される。紙幅の都合で実際のページの表示は割愛するが、「地位」は26の結果のうち25番目に表示される。Denshi Jishoでは、検索結果の

⁶ Adys<<http://adys.org/>> (2016年3月14日閲覧)

⁷ ORIGO SZTAKI SZÓTÁR<<http://szotar.sztaki.hu/angol-magyar>> (2016年3月14日閲覧)

「Sentences」をクリックすると、例文が表示される。調査協力者は地位の「Sentences」を表示し、例文を確認し、作成中の文章に「地位」と書いた。

プログラム状態語 <i>Noun, Computer terminology</i>	プログラムじょうたいご	program status word; PSW Sentences Kanji details External links
地位 <i>Common word, Noun</i>	ちい	(social) position; status Sentences Kanji details External links
基本状態 <i>Noun, Computer terminology</i>	きほんじょうたい	basic state; basic status Sentences Kanji details External links

図 8. Denshi Jisho での「helyzet」検索結果の一部

Denshi Jisho — Online Japanese dictionary
Home Words Kanji Kanji by radicals Sentences About Forum Links

Japanese:
English:

Found 94 sentences. Page one, two, three

彼は地位に満足だ。	He enjoys his position. Kanji details External links
彼はよい地位を得た。	He got a good appointment. Kanji details External links
地位は君の力量しだいだ。	The position is conditional on how well you are able to perform. Kanji details External links
彼は彼女より地位が低い。	He is beneath her in rank. Kanji details External links
彼をその地位からはずせ。	Dismiss him from that post. Kanji details External links
彼はその地位を志願した。	He applied for the position. Kanji details External links
彼は社長の地位を熱望した。	He aspired to the position of president. Kanji details External links
高級車は地位の象徴である。	An expensive car is a status symbol. Kanji details External links
彼は会社で重要な地位を得た。	He got an important position in the company. Kanji details External links

図 9. 「地位」の「Sentences」

4. 考察

ここでは、調査結果をもとに2つのリサーチクエスチョンに答える。

4-1. 学習者はどのような「辞書」を使っているか

学習者は Denshi Jisho のような辞書サイトだけではなく、Google のような検索サイトも「辞書」として活用している。また、ウィキペディアのように辞書サイト、検索サイトではない個別のサイトも「辞書」として活用していることがわかった。

4-2. 学習者はどのように「辞書」を使っているか

調査結果から学習者は様々なストラテジーを用い、「辞書」を使っていることがわかった。ウィキペディアの多言語リンクの活用したり、「～とは」という検索ワードを使い検索を行ったりしている。また、検索結果をそのまま使ったり、検索結果で表示された1番目を使ったりしているわけではないことがわかった。「オリエンタリズム」では、本当に適切かどうか何度も検索を繰り返していた。「地位」では26の検索結果のうち25番目であっても、学習者自身が適切だと思うものを文章に採用していた。また、例文も確認し、検索結果の語が適切かどうか複数の手続きを踏んでいた。

5. 結論

本調査では、SNS使用に慣れた学習者を対象として調査を行った。そのため、どのように「辞書」を使用するかは未知数であった。本調査を行った調査協力者は、様々なストラテジーを駆使し、何段階にも確認を行う、謂わば「グッドリソースユーザー」といえる学習者であった。では、なぜこのような「グッドリソースユーザー」になりえたのだろうか。

調査を開始する前、調査協力者が1年前に書いた文章を見せてくれた。その文章は日本留学前に書いたもので、辞書を使っていたのに今見るとおかしいところがたくさんあるとを見せてくれたものである。調査の際、「グッドリソースユーザー」と呼べると感じた筆者は、フォローアップインタビューで以下のように質問している。

フォローアップインタビュー4. 以前の「辞書」使用方法について

Q : (1年前に書いた文章を指して) そのころは、辞書で調べたことばをそのまま使ってたの？

A : 以前は文脈とか例文を見なくて、ハンガリー語のことばを調べて、そのまま使って、全然ちがうこともあった。

Q : じゃ、いつから？

A : 日本に留学した時、自分であんまり日本語っぽくないって知って、一番良いことばを見つけるために、インターネットでいろいろ探して、やるようになりました。

このフォローアップインタビューから、以前の「辞書」の使用方法は現在とは異なっていたことがわかる。また、「グッドリソースユーザー」になるまでに、「インターネットでいろいろ探して、やるようにな」ったことがわかる。つまり、調査協力者自身が試行錯誤しながら身につけたストラテジーであるといえる。

一方で、「～とは」という検索ワードを用いる検索方法は「大学で教えてもらった」とも話している。このように、「辞書」を活用するための方法が提示されれば、「辞書」活用のストラテジーの1つとして身につけられることもわかった。従って、「辞書」使用に関して支援を行うことで、学習者のストラテジーの幅が広がり、より有効的に「辞書」を活用できるようになるだろう。また、これまで学習者は試行錯誤し、適切な使用方法を身につけるまで非常に時間がかかった。しかしながら、「辞書」使用に関して支援を行うことで、日本語学習歴の短い学習者であっても、高度な文章が書ける可能性もある。

6. 今後の課題

上述のように、「辞書」使用に関して支援を行うことは可能であろう。しかしながら、課題は山積している。本調査では「オリエンタリズム」という専門用語を検索したため、ウィキペディアや「～とは」という検索ワードが有効であった。また、「地位」のように1つの語には辞書サイトが有効であった。しかし、学習者が求める検索は専門用語や語だけではない。表現であったり、類語のニュアンスであったり、様々な要望があるだろう。今後は、Aを検索するためにはこの方法が有効だった、Bを検索するためにはこの方法が有効だったというように、多くの事例を集め、整備していく必要がある。

また、語の選択基準も明らかにしていく必要がある。本調査で検索した「地位」は、調査協力者が元々知っている語であったため、検討がつけやすかった可能性が高い。今後は「辞書」を検索した際、複数の検索結果から何を、どのように、選択すべきかを明らかにする必要があるだろう。

「辞書」に関する支援は、1つ1つの課題を克服した後、有意義な支援が行えるようになるといえる。